2026年 10月 16日-17日　第62回日本胆道学会学術集会（宇都宮）に参加しました



関東地方は最近台風などの影響で天気が崩れていましたが、学会の会期中は快晴となり、気温もちょうどよく気持ちの良い気候に恵まれました。

今回は、獨協医科大学の内科学（消化器）講座主任教授である入澤篤志先生が会長を務められ、「胆道学の未来へ―次世代への継承、創造、そして革新―」をテーマに、我々の地元・宇都宮にて開催されました。

胆道学会は“胆道オタク”と言われるほど熱意あふれる先生方が多く参加されますが、逆に言えば気心の知れた温かい集団でもあります。発表内容ももちろん胆道学一色で、普段見ることのできない貴重な手術ビデオなどもあり、非常に楽しく勉強になる2日間でした。私自身も、ワークショップでの発表と口演の座長を務めさせていただきました。

また学問だけでなく、学会会場や懇親会では旧友や仲間たちと熱く親交を深める姿が見られました。私も数年ぶりにお会いする先生方を含め、多くの仲間と再会できました。懇親会では宇都宮名物の餃子がたくさん振る舞われ、お酒を片手に大変楽しい時間となりました。
今から来年の開催が待ち遠しく感じられます。（尾島）

2026年 10月 16日-17日　第62回日本胆道学会学術集会（宇都宮）に参加しました



尾島は、ワークショップ2「胆道疾患に関するトランスレーショナルリサーチ」にて講演を行いました。
これまで私自身が進めてきた、胆道癌研究に不可欠なバイオリソースの収集・樹立やデータベースの構築についてお話しし、これらを有機的に活用した数々の前臨床試験、そこからつなぐことができたトランスレーショナルリサーチ、さらにはこれらを取り巻く課題や問題点について提示いたしました。
その後に発表されたご講演も興味深いものばかりで、大変刺激になり勉強になりました。セッション終了後には、複数の先生方と名刺交換をさせていただき、新たな交流や広がりのきっかけが生まれました。
（尾島）

2026年 10月 16日-17日　第62回日本胆道学会学術集会（宇都宮）に参加しました



写真左より　久保田先生、後藤先生、相島先生、井澤君、尾島

相島教授を囲む会を開催しました

学会1日目の終了後、長年お世話になっている相島慎一先生（九州大学大学院 病態制御学講座 構造病態病理学分野 教授）との二人での会食（サシ飲み）を予定していました。

そこへ、胆道学を推進している若き病理医の久保田直人先生（慶應義塾大学病院 病理診断部）、後藤慎太郎先生（弘前大学大学院医学研究科 人体病理学・病理診断学講座）、さらに弘前大学で後藤先生のご指導のもと胆道病理学を目指す大学4年生の井澤満君が合流。急遽「相島教授を囲む会」へと変更になり、大いに親交を深めました。

写真ではすっかり食べ尽くされた後ですが（笑）、宇都宮のおいしい餃子を囲んでたくさんのお酒を酌み交わし、若手との交流を心から楽しみました。相島先生は翌日に教育講演をお控えにもかかわらず、最後までしっかりとお付き合いいただきました。さすが九州男児、昔とお変わりありません！

大変楽しいひとときとなりました。相島先生、そして先生方、またよろしくお願いいたします！（尾島）